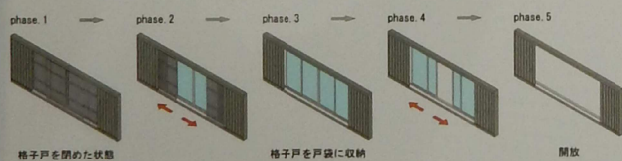


下町の町家

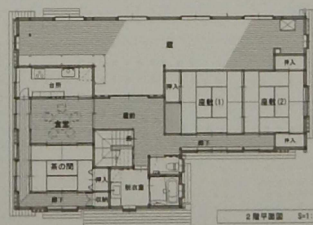


格子戸を閉めた状態

格子戸を戸袋に収納

開放

開口部イメージ



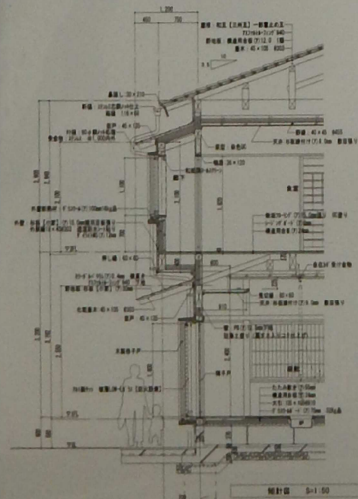
2階平面図 S=1150



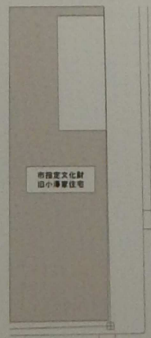
1階平面図 S=1150

セミパブリックスペース

910mm 1.620mm 2.730mm 3.640mm
3尺 1間 1間半 2間



縦断面 S=1150



上大川前通り



上大川前通り

新潟市中心街から少し離れたところに下町と呼ばれている地域がある。明治時代の建築や小路が残る下町には、湊町新潟の歴史に欠かすことの出来ない町並が形成されている。その地域に本プロジェクトが計画された。

施主から求められたことは「町家を作りたい」という要望であった。施主は、敷地対面にある市指定文化財の町家に住んでいた。周辺の景観を守り、地域の活性化を願う強い思いからの要望であった。

我々は、施主が以前住んでいた市指定文化財の町家に敬意を払った上で、新しい町家を提案した。全体構成は、大通りに対して平入に計画し、切妻の屋根がぶつかる丁字(ていじ)型の屋根とした。これは、新潟町家の特徴を踏襲したものである。周辺との調和を図るために外壁は、縦張りのお板を使用した。釘はステンレスや真鍮などいろいろ検討したが鉄釘を採用した。周辺の木板張りを観察調査した結果、錆びによる膨張で、より外壁をしっかりと固定できると判断したからである。また、道路側の開口部はアルミ製建具で防火性能を確保し、外側にはヒバ材の可動式木製格子戸を設置した。格子戸はプライバシーを確保し、日照を調整する。この格子戸は戸袋に収納することも可能である。

さらに2階部分は道路側に750mm突出し形とした。その下部は歩道と一体となった開放空間となり、私有地と公共歩道との境界を無くす役割を果たしている。内部は地域との交流のために、一部(座敷・台所・板の間・化粧室)を開放することを意識した。土間からの出入りはもちろん、座敷の外側開口部はアルミ建具・格子戸共に戸袋に収納し、3,000mmの全面開放が可能である。現在整備中の、向かいの市指定文化財の町家が市民に開放された時に、本建物がイベントスペースとして活用される事を願ったものである。

「町家」というコンセプトを大切に守り、地域との関わりを意識した。この「下町の町家」の影響によって、今は点在するだけの他の町家が互いに点から線のようにつながり、魅力的な町並が作られることを期待している。